

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	4470800345		
法人名	大分部品株式会社		
事業所名	グループホーム湧水の郷		
所在地	大分県竹田市大字菅生字木ノ上1169番2		
自己評価作成日	平成28年3月14日	評価結果市町村受理日	平成28年6月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kan=true&JigyosyoCd=4470800345-00&PrefCd=44&VersionCd=

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壺番館 1F
訪問調査日	平成28年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

久住山、祖母山、阿蘇山の景観を見渡せる広大で自然豊かな環境にあり、施設も広々として開放感があり、スタッフも気さくで利用者様を自分の父母・兄弟・姉妹と思って日頃から心掛けています。また、当事業所所有の畑があり、野菜の自家栽培を行っており、毎日の食卓へ提供をしています。地域事業にも参加させていただき小学校との交流等にも参加させていただいています。

自然環境が素晴らしく、一人ひとりに気配り・個別支援が出来る体制づくりがなされています。食事支援は、プロの調理人が暖かいものは暖かく、嚥下機能の弱った人には、食べやすい大きさにするなど利用者が元気になる配慮に、施設全員で取り組みがなされています。身体拘束・虐待など利用者の尊厳を大切にする職員研修が行われ、スキルアップに取り組まれ安心を感じさせる施設です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族や地域社会との関わりが保てるよう「つなぎ役」としての役割を担っていることを理念に掲げ、折にふれ実践するように努めている。地域で普通の生活が安心して継続できるよう支援する話し合いは頻繁に行っている。	朝の申し送り、カンファレンス等で理念について職員全員で共有し、家族等にも折に触れ理念の必要性を納得して頂き、日頃の支援に反映するよう取り組みがなされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の人がいいつでも立ち寄れるように働きかけている。旬の食材を使った料理やおはぎなどの手作りは、野菜を差し入れてくださる農家や近所などに配るなどして交流を頻繁に行っている。	近所との交流は、地域で採れた物の交換や地域の祭り・イベントそして施設に気軽に立ち寄って頂くなど双方向で行われるよう取り組みがなされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	御家族の面会訪問時や、地域の人達に折にふれ「認知症」の理解やケアなどを話すようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年は5回実施し、第三者による貴重なご意見を聞けた。それらは全て職員に周知しケアの実践に活かしている。	推進会議での意見等を、共有しながらその改善に取り組みが行われ、自己評価・外部評価等も推進会議等に説明し、意見を頂くなど双方向での取り組みがなされています。	推進会議のポジションを理解し、施設にとってプラスになるような活用とともに、2ヶ月に一度は開催されるよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	家族が県外居住が多く行政の代行業務等で足を運ぶことが多い。その時や電話などで相談したり指導いただいたりしている。マイナンバー制度により、頻繁に行政機関との連絡に機会があった。	制度の改正や利用者の認定更新など必要が生じた時は、積極的に介護保険係や地域包括支援センターに相談するなど協力体制の取り組みがなされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束及び行動制限廃止マニュアルや緊急止むを得ない身体に関する説明書を作成し、正しく理解するようにしている。同意により身体拘束を行ったことは、ない。	拘束に関する勉強会は施設内研修として取り組まれ、施設外研修に参加された場合、研修を受けた職員が、会議等を通じて全職員と共有するシステムが構築されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の内容は職員がよく把握している。又関係書類は備え付けいつでも再認識ができるようにしている。利用者や職員の日常の言動に管理者は注意を払い、虐待が見過ごされないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「介護による利用者権利擁護」資料を常時閲覧可能として、保険者開催の日常生活支援事業研修会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問などを遠慮なく尋ねられるような雰囲気作をつくり、管理者が説明している。些細な事でも丁寧にゆっくりと説明し、理解と納得の上で手続きができるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活してきた環境が皆違うので価値観の違いから、不満や苦情が生じるのは当たり前なので遠慮なく表面にだされるよう本人や家族に話している。来ホームや電話の応対時などに柔らかくご意見をお尋ねしたり、結果報告等にあたっている。	面会等での来ホームや電話等で意見・要望を聞く機会を設けたり、施設に來れない方には、市役所・地域包括支援センターなど相談する窓口がある事を伝え、意見・要望が伝え易いよう取り組みがなされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見を聞く機会は常々意識してつくっている。実現可能なことは意欲や質の向上に繋がるのでよく聴いた上で現場に反映させている。失敗を恐れないよう又咎めないようにし、次に活かすよう指導している。	毎日の申し送り時や、月に一度のサービス会議等で利用者の状況、支援の方法等について共有がなされ、職員が施設代表者・管理者等に意見やアイデアを伝えやすい環境に配慮がなされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社が佐伯市にあり総括しているので、施設長が連絡をとりながら職場環境の整備や条件の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画を立てて順次研修を受けケアの質を高め、実践に取り入れるようにしている。又旅費や日当、研修前後の勤務体系に考慮し負担にならないよう配慮している。介護福祉士国家試験の受験をサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	短期入所者等のサービス担当者会議の出席を必ず行っている。また、市地域包括支援センター、保険者開催の研修会への参加を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	現実的には本人の納得が十分でないのに家族の意向による入居が多い。家族の状況や思いを受け入れつつ可能な限り本人に会い、不安な気持ちを察してよく話を聞き解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	肉親を入居させることへの複雑な気持ちを理解し、家族の立場(子供や嫁それぞれの)をよく聴き、本人との想いの違い、家族同士の想いの違いも含めてしっかり受け止め信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実情や要望をもとにその時点で何が必要かを見極めるため、ホーム関係者だけでなく居宅のケアマネージャーにも相談している。必要と思えるサービスについては速やかにサービスできるよう配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	実情や要望をもとにその時点で何が必要かを見極めるため、ホーム関係者だけでなく居宅のケアマネージャーにも相談している。必要と思えるサービスについては速やかにサービスできるよう配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに配慮しながら、一緒に支援するよう働きかけている。例えば一番頼りにし大事にしているのは家族だという事を代弁し、家族の担う部分を理解していただき、介護がゆだねきりにならないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	留守宅訪問や馴染みの場所にはドライブを兼ねて行く。又親しい人や家族、親戚がお出での時は畳の部屋で他の入居者とは別にお茶や食事を用意し、くつろいでいただいている。	以前からの付き合いのある方や馴染みの場所への訪問は、利用者本位に添い支援がなされ、重度化への傾向ですが、手紙・電話等親戚や馴染みの人と継続して交流が出来る取り組みがなされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	好きなテレビやビデオ、茶話会では同じ思いの人に声をかける。又お祝い事や不幸は状況を説明しお互いを思いやる気持ちを大事にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近くを通ったら立ち寄ったり、時節の便り(賀状・暑中見舞い・誕生祝など)を家族や本人にだしている。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの人生を大事に思いやりながら思いや意向、希望に沿って対応している。一緒に実現への課程を共有するようにしている。又把握が困難な場合は関係者で本人の視点に立って意見をだし合い、話し合って事に当たっている。	声かけ等日頃の支援に関わる中、本人の思い・意向を把握しながら、本人らしく毎日の生活が楽しめるよう体制づくりがなされ、家族・親戚等の意見も交えながら、本人本位にした支援がなされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者個々の歴史や馴染みの暮らし方及び入居に至った経過は可能な限り把握するよう努めている。日々の暮らしの中から折に触れ「気付かされる・気付く」ことは多々ある。この積み重ねを大事にしたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できない、嫌だと思える事でもそのときの雰囲気と心身の状態が噛みあって思わぬ力を発揮されることが多々ある。総合的な把握もさることながら、関わりの中で潜在能力を引き出せるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の関わりで、そのとき直ぐに対応するケアや見直し、観察を要する事など頻繁に現場サイドで話し合っている。その上で本人の想いや希望などを聴き、それから家族と本人及び関係者と話し合い計画に反映している。	本人の意見を尊重し、家族・親戚・職員の意見を参考にしながら介護計画の作成に取り組まれ、本人の状態の変化等が生じた時は、介護計画の見直し・変更等の取り組みがなされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日介護記録や申し送りノートに記録をとり情報を共有しあっている。又短時間でも毎日気づきや結果などの共有に繋げるように意識して話し合っている。これらのことを根拠にしながら介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院したとき家族に代わっての入院準備や、介護施設の紹介や説明、家族の居ない人の受診介助など必要に応じ柔軟に支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族がいない入居者には民生委員との関わり等を利用して地域の人達と連携を密にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に馴染みの主治医による継続的な医療が受けられるよう本人を含め、家族や主治医に説明し安心してもらっている。	家族の希望で定期受診は職員が同行し、結果は家族に報告、事業所と共に共有がなされています。協力医院が月に一度訪問診療され他の医療機関とも関係を密に結んで利用者も安心されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師はいないが、協力医院やかかりつけの医療機関と連携を密にし、適切な受診や看護が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や医療機関には本人及び家族の意向、それにホームの介護力を伝え、入院や退院の目安となるよう日頃より伝えている。ケースワーカーとは連絡を取り合い、ホームの見学や介護方針等情報提供を行い関係作りを行っている。入院中の面会にも力を入れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したときや終末期の事業所としての方針を、早い段階で本人及び家族と話し合い意向をよく聴き説明している。又主治医とは事務所の方針と介護力を早い段階で相談して助言をもらっている。	重度化に伴い安心して納得した最期を迎えられる様、随時本人や家族と話し合いながら取り組んでいますが、看護師の確保が出来ていない為、最期は病院で看取るのが現状です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練を行っている。マニュアルをおき、夜間勤務時や必要時に意識して確認し、緊急時に備えている。また、緊急時の協力員として近所の3名の方の電話連絡がいつでもとれるよう貼ってある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し各担当者を決めている。地区分館長や近所の人達、地元消防団にも協力要請をしている。	消防署等の協力のもと年2回避難訓練を実施、同時に救急救命法もAEDを使用して学習され全ての職員が対応できるよう努力されています。非常用の備品・備蓄の対応も出来ています。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であること、その人の人生は今がどうであれ尊いものであることを、職員は根本に据えて接している。特に個人情報の取扱いは家族や知人であっても漏らさないように指導している。	利用者への言葉かけには職員同士常に気をつけており、さりげないケアを心がけています。居室も花の名前に対応してプライバシーを損なわないよう取り組みがなされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の密度な関係で「慣れ」が生じやすいので、早合点や会話だけで理解したつもりにならず、表情や目の動き、体全体の反応を注意深く観察するようにしている。自己決定ができるようゆっくりと顔を見て声かけしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の心身状態を考慮し、その時々で生活のリズムが違うことや、利用者主体の生活である事を認識しているので、利用者に合わせて(希望に沿って)臨機応変に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はとり易いように一緒に整理したりハンガーに掛けておく。理容や美容は声かけし自分で髭剃りをしたり、美容師に来てもらったり、行ったりしている。1日1回は更衣している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きなど手伝ってもらい、出来立てと一緒に味わいながら食べる。又行事の献立は豪華に、「謂れ」を大事にし、旬の食材は早めに食卓に出すようにしている。	プロの調理員を雇用し、利用者と職員と一緒に食事をされ見守りながら食事介護を行い家庭的な雰囲気づくりを大切にしています。重度化でテーブル拭き等手伝う利用者は少なくなりました。	食事前の嚥下、口腔体操に取り組まれ、利用者がいつまでも食べ続け、誤嚥性肺炎の予防等に配慮するよう期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	新鮮な自家製野菜を中心とした献立を偏らないよう、状態の応じた食事形態で提供している。また摂取量のチェックを行い(食事や水分)、脱水症状にならないようにしている。好き嫌いにも個々に対応。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後必ず本人がした後に(能力に応じ)磨き直しを行っている。又定期的に入れ歯は洗浄し、コップや歯ブラシは夜に洗い乾燥させている。チェック表に記録し磨き忘れがないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ADLや排泄チェックより、個々の排泄パターンを把握し声かけや誘導、見守りに一部介助を行い、オムツ使用は最小限にしている。	排泄をもようす時は、職員にサインを送る利用者も多く、リハビリパンツにパット使用の利用者がほとんどで、夜間オムツ対応は1名です。排泄チェックを有効に利用されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い野菜やヨーグルト、牛乳などの飲食物摂取を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の生活習慣や身体状況、その時々希望を大事にして柔軟に対応している。目安のため入浴チェックを行い拒否する人の「促し」の参考にしている。入浴はリラックスし、ゆっくりと安全に入ってもらっている。	週3回の入浴で、車イス利用者が多く、リフト浴を有意義に活用されています。ゆっくりと安心・安全に気持ち良く入浴されるよう配慮がなされ、水分補給も確保されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室はベットを用意し、いつでも必要に応じ横になれるようにしている。(ホールには長椅子・衝立で仕切った畳の間にはコタツがある)又布団は「太陽」に干し、シーツは頻繁に洗濯し清潔保持と安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れが無いよう又間違いがないように、名前と日付をいれ2人の職員で確認しあっている。服薬による副作用や症状の変化には気を配っている。副作用があれば直ぐに主治医に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を参考に、関わりの中から新たなヒントを得て潜在能力を発揮するきっかけを作り出すよう働きかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・ドライブ・買い物同行・定期受診時に遠回りするなど可能な限り外出できるようにしている。家族にも一緒に外出するなど働きかけている。外に出ての表情や会話の生き生きとした変化をどの職員も感じ取っており、外出を一緒に楽しんでいる。	重度化に伴い外出支援は、定期受診が主な支援になっています。天気の良い日は、職員同行で事業所の周辺を、車イスで外気浴を楽しめる支援がなされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じ、家族と相談しながら所持や購入時にお金の支払いができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に、或いは必要に応じいつでも電話で話せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	目に触れるところに花や観葉植物等をおいて、季節を感じながら居心地良く過ごせるようにしている(屠蘇器・こいのぼり・雛人形など)又いつでも読んだり見たりできるよう新聞や雑誌を置いている。	利用者の体調が良い時など、思い出に残る飾り付けと一緒に取り組まれ、家族や面会等に来られる人の意見も受け入れ、生活感・季節を感じられるように配慮がなされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間にはコタツがあり、座椅子や座布団を置きいつでも思い思いの姿勢でくつろげるようにしてある。その他テレビの前にソファや長椅子を、玄関とカウンターの横には椅子を、ソファの横にはマッサージ器を配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い自分の部屋である為に、使い慣れたタンスやソファ・小物入れ・寝具を持って来られている。	本人の要望・家族の意向を尊重し、今までの生活を延長できるよう、取り組みがなされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やホールは段差がなく手すりを配置し、トイレや浴室は滑らないよう工夫されている。又歩行線路上に障害物を置かないようにしている。		